

人と自然にやさしい住生活空間を目指して。



CONTENTS

クリナップという会社について

● 創業理念・経営理念	3
● 会社概要	4
● 主要営業品目	5
● 環境方針	7
● 環境保全活動推進体制の紹介	8

クリナップの環境保全活動について ～環境保全活動の中期計画と実績の報告～

● 事業活動に伴う環境課題	9
● 環境中期計画の目標と実績	11
● 環境に配慮した製品づくり	13
● 事業の中での環境負荷低減	17
● 環境マネジメントシステムの構築	20
● 環境会計	25
● 環境コミュニケーション	27
● 環境保全活動の沿革	28

クリナップグループ&ネットワーク

	29
--	----

環境報告書をわかりやすく お読みいただくために

この環境報告書は、最終消費者の皆様を始めとして、お読みいただく方に順序立ててわかりやすく活動内容を報告することをこころがけて作成しました。

この報告書の構成内容と報告する順番は右の通りです。

環境報告書の範囲／参考にした環境報告書に関する基準等について

報告する活動期間：2004年4月1日から2005年3月31日です。
報告するデータ：2000年度から2004年度までの5年間のデータです。
報告する対象組織：組織全体のご紹介は「クリナップグループ&ネットワーク」の項で改めてさせていただきます。
この報告書の対象組織は下記の通りです。

- クリナップ(株) 本社・生産本部(各営業拠点は除く)
生産工場
(四倉工場、鹿島システム工場、湯本工場、鹿島工場、鹿島工場クレート製造課)
- 関連会社 クリナップ調理機工業(株)、クリナップ岡山工業(株)、九州クリナップ工業(株)、
(株)クリナップステンレス加工センター(鹿島アート工場、野田工場)、クリナップ運輸(株)、
クリナップ岡山運輸(株)、クリナップロジスティクス(株)

参考にした基準等：この報告書は、環境省発行の「環境報告書ガイドライン2003年版」を参考にして作成しました。

ごあいさつ

私たちクリナップが大切にしてきた創業以来の社訓『感謝の心』の中に、「社会に貢献せよ」「社会に奉仕することにある」などの言葉が出てきます。ここでいう社会とは「人」と「環境」の両方を指しています。半世紀以上に渡って私たちは、社会的責任を果たすことの大切さを常に意識してきました。

50周年の節目にあたる1999年には、「信頼できる・安心できる企業」「世の中になくなくてはならない企業として一歩一歩進んでいく」、そのような思いを全社員と共有するため、新たな経営理念として「創造・自律・共生」を制定し、経営目標「顧客の創造と維持」を2000年に発表しました。さらに、2005年4月1日よりCSR推進室準備プロジェクトを本社部門に設置、コンプライアンスや個人情報保護だけではなく、幅広い視点から社会的責任を積極的に果たすための体制づくりも始まっています。

そして2004年、クリナップグループでは、「住生活空間サービス創造企業」というコーポレートブランドの確立に向けて新たなスタートを切りました。お客様の視点に立って、快適な暮らしを創造し、住生活のさまざまなシーンをサポートできる企業を目指しています。最近では、住空間の騒音に配慮した“サイレントキッチン”、清掃性を向上させ水資源や洗剤の節約に配慮した“e-シンク”等の商品を開発・提供しました。

また環境保全活動として、2000年より製品のライフサイクルサポート(クリナップ製品が誕生しその役目を全うし、再資源化するまで)に全社をあげて取り組んでいます。①環境に配慮した製品づくり、②事業活動の中での環境負荷の低減、③環境マネジメントシステムの構築、④環境コミュニケーションを通じ、情報の発信の4つのテーマを基本骨格に位置づけました。特に①環境に配慮した製品づくりとして、ダイオキシンや環境ホルモンへの対応として塩ビ使用部品の削減、施工現場での廃棄物対策としてリターナブル梱包化、使用後の製品の分離・分解性向上による将来のリサイクル化への対応、接着剤・溶剤等に含まれる人体に影響のある化学物質使用の削減等に取り組んでいます。

このたびの「環境報告書」では、環境保全活動の内容とその結果、また今後の計画について報告し、私たちクリナップグループの考え方、やってきたこと、今後、やろうとしていること等を積極的に情報開示してまいります。「環境」というキーワードで、皆様とのコミュニケーションをさらに深めるとともに、社会の一員として、責任を果たしていきたいと考えています。

代表取締役社長

伊藤 隆一



創業理念・経営理念

クリナップは、創業以来、お客様、材料仕入先、販売先、地域の人々等、数多くの方々のご支援に支えられて商いを大きくしてまいりました。その過程で肝に銘じてきた「感謝の心」、「一家一族」、「五心」は、クリナップの現在を築き上げてきた原動力です。この思いはこれからの変化の時代にも普遍性があると考え、1999年10月、創業50周年の節目を迎え創業理念に位置づけました。

創業理念

・感謝の心 ・一家一族 ・五心

一、創業の心
我々は一家一族の精神に則り喜びも苦しみも頷き合い永遠に発展する会社をつくらねばならぬ。

一、親愛の心
親愛の心は家庭・企業・社会の基である。人との心の繋りを大切に、信頼し努力しあって生きよ。

一、創意の心
創意・開発は我が社の生命である。この心を忘れることなく会社の繁栄をはかり社会に貢献せよ。

一、技術の心
新たな市場の創出のため、広く技術を内外に求め集約せよ。そして技術を生む知恵を磨け。

一、使命の心
我が社の使命は社業を通じ社会に奉仕することにある。常に感謝の心を忘れることなく邁進せよ。

五心

2000年、大競争時代が幕開けしました。新たな挑戦をしてこの時代を生き抜くためには、社員みんなの「個」を大切にしながらも全社員が企業目標の達成に向けて共有できる「思い」が必要でした。そこで、創業理念を出発点として新たな時代に即応した経営理念を制定しました。

経営理念

・創造 ・自律 ・共生

一、私達は、顧客との誠実な対話と心のこもった対応により、常に革新的な商品とサービスを、より安全な高い品質で提供します。

一、私達は、自らを巻き込む全てのものを尊重し、人と社会と環境に対し責任ある行動をとり、長期的な安定と成功を求め、最大の利益を上げる企業とします。

一、私達は、一人一人が仕事をやるうえで目標を持ち、何を成すべきか考え行動することによって、能力を發揮します。

一、私達は、一人一人の多様な才能や考えを認め合い、革新的で高いレベルの技術と技能を磨きます。

一、私達は、安全で充実した働く環境をつくり上げ、快適で豊かな暮らしを分かち合います。

一、私達は、一人一人が公正で自律した考えと行動により、自由で創造的な職場をつくり出します。

行動指針

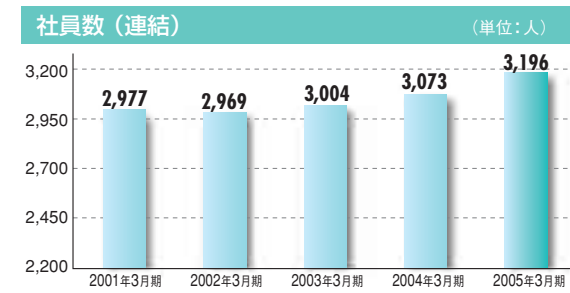
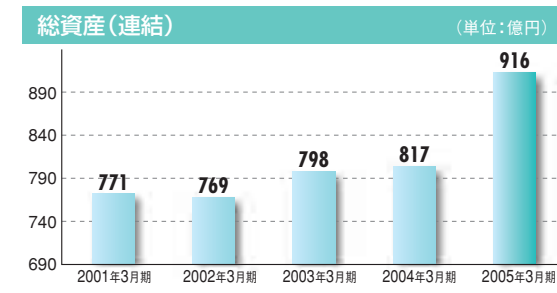
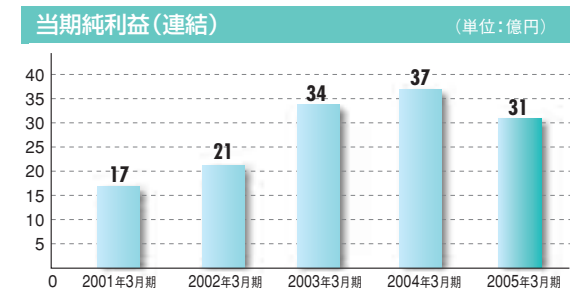
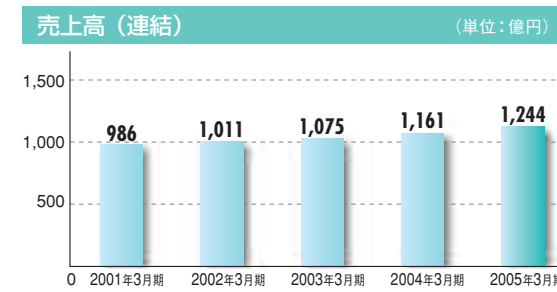
会社概要

クリナップは、1949年、座卓を製造販売する事業から始まりました。以後、暮らしの中に新商品を送り出し続け、新しい暮らしを提案し、今では、システムキッチン、システムバスルーム、洗面化粧台等の水回り住宅設備機器の専門メーカーとして事業活動を行っています。

そして、私たちの専門メーカーとしてのコア技術とモノづくりに対するこだわりは、単なる住宅設備機器メーカーの事業領域にとどまらず、「住生活空間サービス創造企業」というコーポレートブランドの確立に向けて動き始めています。

「暮らしの中に感動をお贈りできるような特色あるモノづくりをしたい。」「きめ細かなカスタマーサービス体制で、新しい暮らしを作る住生活空間を提案したい。」、そんな思いを抱き、お客様一人一人のベストパートナーとなって、住生活のさまざまなシーンをサポートできる企業を目指します。

社名	クリナップ株式会社
英文社名	Cleanup Corporation
本社所在地	〒116-8587 東京都荒川区西日暮里6丁目22番22号 電話03-3894-4771
創業	1949年10月5日
会社設立	1954年10月5日
上場	1990年 2月6日 東証2部上場 1991年 9月2日 東証1部上場
資本金	132億6,734万円
決算期	3月(年1回)
業績の推移	売上高、当期純損益、総資産について報告します。 連結：クリナップ株式会社、クリナップ調理機工業(株)、クリナップ岡山工業(株)、九州クリナップ工業(株)、(株)クリナップステンレス加工センター、クリナップキャリアサービス(株)、井上興産(株)、クリナップ運輸(株)、クリナップ岡山運輸(株)、クリナップロジスティクス(株)、クリナップテクノサービス(株)、クリナップテクノサービス西日本(株)



主要営業品目

厨房機器

キッチン空間では、料理を作る・後片付けをする、モノを出し入れして収納するという動作が行われます。この動作を基準に、人それぞれのライフスタイルによって「快適で、楽しく、ワクワクする感動」を提供する空間提案を行っていきます。

■ クリンレディ

ホームパーティができる。家族の団らんができる。おもてなしもできる。それに、ゆとりの時間もできてしまう。奥様が食事の支度をするだけの空間から、家族の「したい」を「できる」に変える空間へ、キッチンが進化を遂げました。暮らしのいろんな思い、クリンレディがかなえます。



■ S.S. ステンキャビ システムキッチン

日本の住空間と使う人の心地よさを考えた「スーパーサイレントキッチン」、「出して使うための収納」というキッチン収納の完成形、そしてクラフツマン（職人）魂の息づく、素材感のある「機能美の追求」――。

S.S.、それは日本ならではのスタイルを真つすぐに磨き上げたキッチンです。

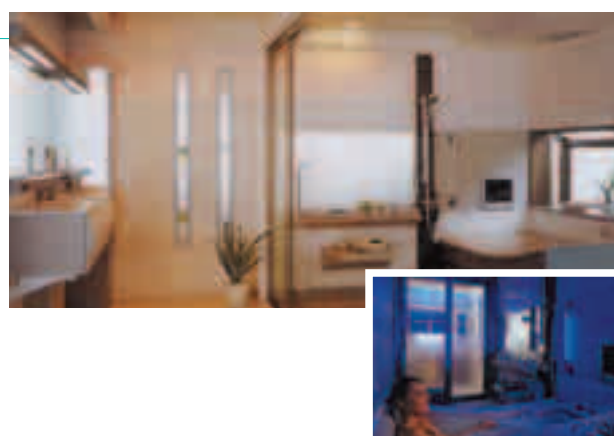


- システムキッチン
- 流し台
- 調理台
- ガス台
- 吊戸棚
- 収納庫
- ガステーブル
- レンジフード
- ガスレンジ
- オープンレンジ
- 電子レンジ
- 冷凍冷蔵庫
- 食器洗い乾燥機
- 食器乾燥庫

浴槽機器

■ アクリア

浴室と洗面室、それぞれ独立した空間として捉える従来の考えから、ひとつのサニタリー空間として捉える発想へ。多彩な機能と洗練されたインテリア。単なる作業スペースではない、水のあるくつろぎのスペース。アクリアから、きっと新しい毎日が始まります。



- システムバスルーム
- 人工大理石浴槽
- ステンレス浴槽

洗面機器

■ ファンシオ

洗面化粧台毎日使う場所だからこそ、快適に過ごしたいもの。使い勝手のよさ、収納力や清掃性の高さ、そして見た目の美しさにも妥協はしたくない…。そんなさまざまなご要望にクリナップは多彩な機能とデザインを備えたラインナップでお応えします。



【ファンシオ】

業界で初めてペンタム®樹脂を洗面ボールに採用しました。樹脂を採用したことで軽量化を実現し、省資源にも配慮しています。
ペンタム®は日本ゼオン(株)の登録商標です。

- システム洗面化粧台
- 洗髪洗面化粧台
- 洗面収納キャビネット

業務用厨房機器 / 留守番ロッカー



飲食店などの小規模な厨房から、ホテルなどの大規模な厨房まで。あらゆる厨房に対応するシステムバリエーション。奥行も標準の60cmから、75cm、90cmのタイプをご用意しています。



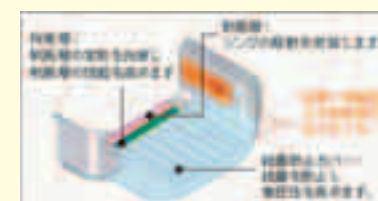
不在時の荷物はおまかせください。留守番ロッカーは、快適な暮らしを楽しむのに欠かせない住宅設備です。

快適なキッチンを実現する、e-シンクのサイレント&クリーン機能



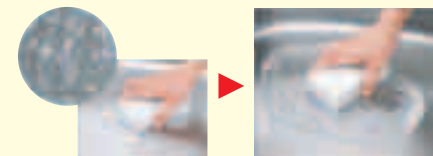
お手入れがしやすく、キズが目立ちにくい加工の開発やサイレント機能の向上により、キッチンがより静かに、より汚れにくくなりました。音漏れやお客様の視線が気になるオープンスタイルのキッチンにもぴったりです。

業界トップクラスの静かさを実現



音の響きを大幅に減らす多層の制振構造を前面・両脇面にまで広げることに より、静音性がさらにアップ。業界最高レベルの静かさを実現しました。

業界初の精巧なエンボス加工



シンクに白く残ってしまう水アカは、クレンザーでゴシゴシこすらないとなかなか落とせませんでした。中性洗剤とスポンジでこびりついた水アカもスッカリ落とすようになりました。



シンク表面にはセラミック系特殊コーティングを施しているの で汚れを落とすやすく、お手入れも簡単。また、底面には半球状の精巧なエンボス加工を施し、傷つきにくく、ついでに傷も目立ちにくくしました。

環境方針

基本理念

クリナップグループは、我々の家庭である地球の環境を永続的に守るため、社会の一員として事業活動及び製品づくりにおいて環境保全に参画し継続的改善を行います。

基本方針

クリナップグループは、システムキッチンを中心とする厨房機器、浴槽機器、洗面機器、業務用厨房機器、留守番ロッカー及びその他の住宅設備機器の事業活動、製品づくりにおいて環境負荷を少なくするため、基本理念に則り、以下に示す環境マネジメントシステム活動を推進します。

- 事業活動及び製品づくりにおいて環境に負荷を与える環境側面を常に認識し、環境負荷の低減に向け自主的かつ積極的に環境目的・目標を設定します。また、この設定した環境目的・目標を達成する為の環境マネジメントシステムは、技術的かつ経済的に対応可能な範囲で実施し維持することで、継続的改善を行います。
- 関連する環境法規及び同意するその他の要求事項を遵守し、汚染の予防を図り、環境保全の向上を行います。
- 循環型創造企業に向けた環境課題の取組みとして、以下の“4つの柱”を基本とした重点方策に取組みます。
 - ①環境に配慮した製品づくり
室内空気汚染物質の低減、簡易分離分解技術の確立、リターナブル梱包の推進、グリーン調達への拡大及び脱塩ビ部品・部材への切替等を行い環境への負荷が少なく安全に配慮した製品づくりを行います。
 - ②事業活動中での環境負荷の低減
オフィス、生産、物流、施工、廃棄段階から発生する埋立廃棄物のゼロ化に向けて推進し、また、省エネ、省資源活動の推進、CO₂排出削減による地球温暖化防止の推進を行い環境にやさしい事業活動を行います。
 - ③環境マネジメントシステムの構築
ISO14001の活動範囲の拡大を行い一層の充実と継続的改善を行います。
 - ④環境コミュニケーションを通じ、情報の発信
利害関係者とのコミュニケーションの充実化に向けシステムの確立を図ります。
- 事業所敷地周辺の清掃活動を行い、地域社会の一員として、周辺地域の環境維持を行います。
- 環境教育を実施するとともに、掲示、環境方針カード等による広報活動を行い、全従業員及び構成員への環境方針の周知徹底を行います。また、取引先、外部委託業者への環境方針の理解と協力を要請します。
- この環境方針は、社外に対して公表します。

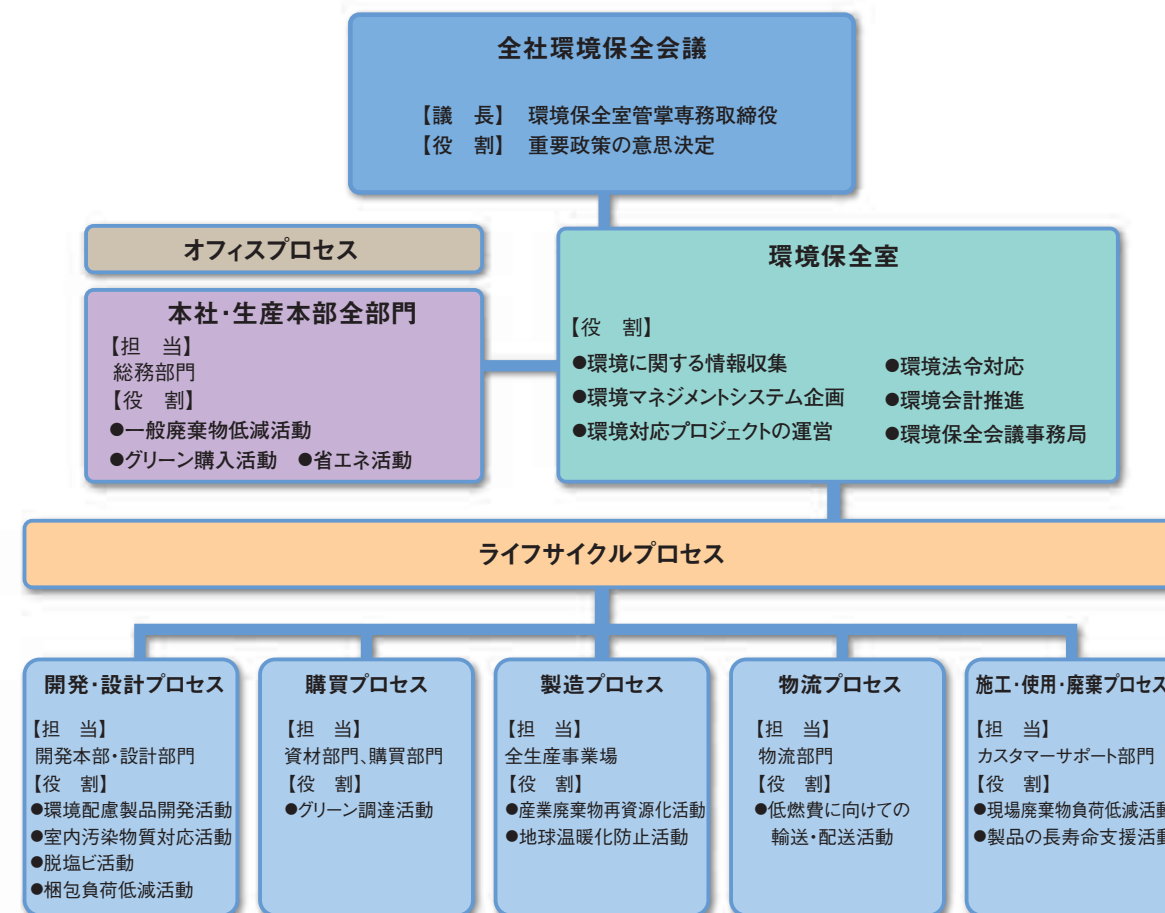
環境保全活動推進体制の紹介

環境方針を達成するため、私たちがどのような推進体制のもとで環境保全活動に取り組んでいるかという点について紹介します。

私たちの環境保全活動は、環境保全室管掌専務取締役を議長に据える環境保全会議という、クリナップの環境保全活動に対する最高意思決定機関によって運営されています。そこで取り扱う議題は、環境保全活動の方向性や目標設定、中期経営計画に取り上げた環境保全活動の進捗状況等が主たる内容となりますが、それ以外にもさまざまな情報がインプットされ、環境保全対応が遅れることのないように、適宜、新たなテーマを取り上げて審議しています。そのため、内部コミュニケーションの場としての機能も有しています。

また、その下部組織についてですが、クリナップの事業活動は、製品の開発から使用済み品の廃棄というライフサイクルの流れを主軸とする活動と、事務所活動のように全部門に共通するオフィス活動に2分できます。そのためライフサイクルの流れに主幹的にかかわる各部門と、オフィス活動の主幹となる総務部門が各々主体となり活動に取り組んでいます。

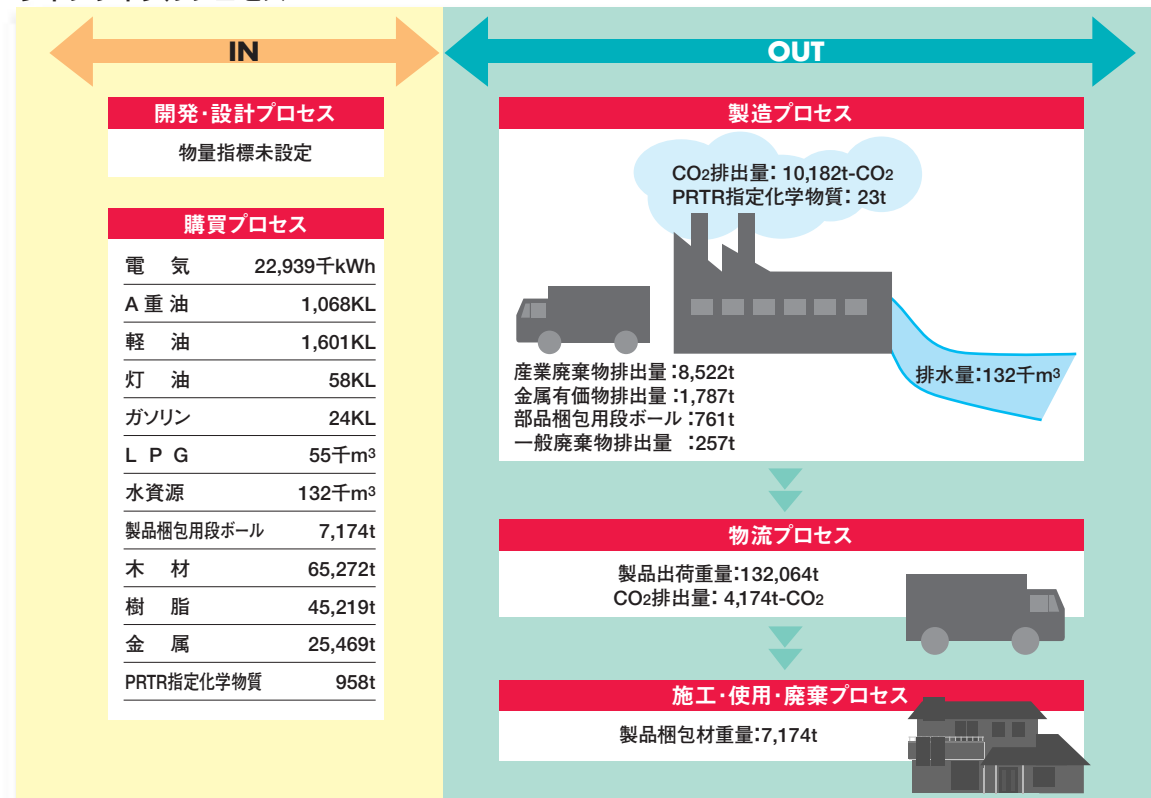
さらに、全社横断的に取り組むべき新規性の高い環境保全活動については、環境保全室が推進主体となって取り組むこともあります。



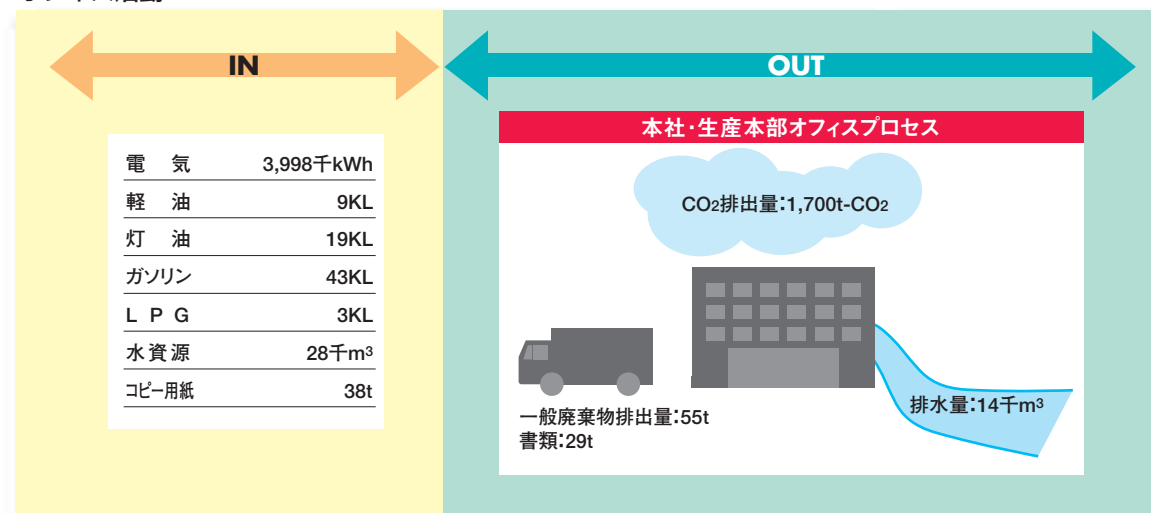
事業活動に伴う環境課題

マテリアルバランス

ライフサイクルプロセス



オフィス活動



環境関連法令(略称)

地球温暖化対策推進法	廃棄物処理法	水質汚濁防止法
省エネルギー法	建設資材リサイクル法	浄化槽法
建築基準法	家電リサイクル法	騒音規制法、振動規制法
PRTR法(化学物質排出把握管理促進法)	容器包装リサイクル法	悪臭防止法
消防法	グリーン購入法	自動車NOx・PM法
毒劇法	PCB特別措置法	道路運送車両法
資源有効利用促進法	大気汚染防止法	

顧客等から求められている内容

1. シックハウス対策

私たちの商品をご使用いただく住宅や学校、公共施設の場では、揮発性有機化学物質による室内空気汚染が関係すると思われる健康問題、いわゆる「シックハウス問題」が指摘されています。この問題に対し、厚生労働省では2000年4月より「シックハウス(室内空気汚染)問題に関する検討会」を開催し、室内空気濃度指針値の策定に取り組んできています。

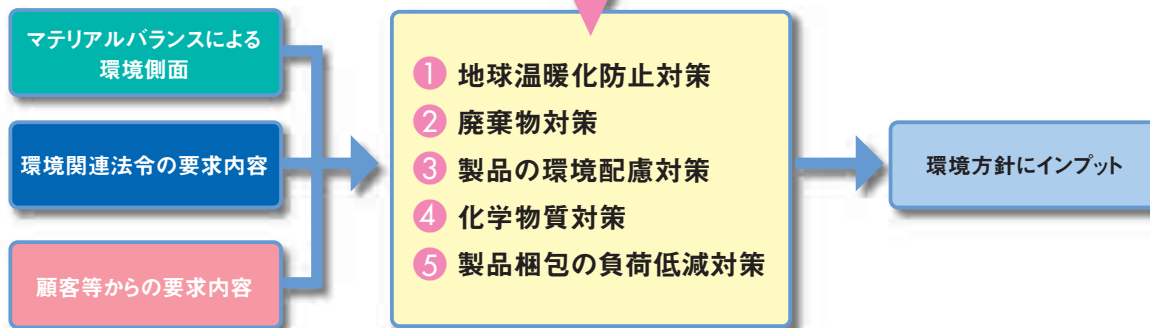
このような背景を受け、お客様からは、クリナップのシックハウス対策に対する質問や要望が多数寄せられています。

2. 施工現場廃材の削減

私たちの商品から施工現場で排出される廃棄物には、梱包材の他にも、現場寸法に合わせて切断された部材の端材、接着剤容器等があります。これらの施工現場廃棄物の処理責任は工事の元請者側にあるため、私たちが直接処理することはできません。しかし、埋立処分場の逼迫した状況や処理費用が高まる傾向にある中で、私たちの商品から出る廃棄物を処理する方々にとって、処理負担はますます増大しています。

このような背景を受け、お客様や施工業者様等からは廃棄物の減量化、梱包の改善が求められています。

クリナップの事業活動に伴う主な環境課題について



環境中期計画の目標と実績

活動項目と評価指標	第1次中期経営計画の目標			第2次中期経営計画の目標			2004年度までの実績	達成度	報告書記載頁
	2000年度	2001年度	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度			
環境方針/①環境に配慮した製品づくり									
●塩ビ使用部品の削減 評価指標:塩ビ使用部品の点数	数値目標は設定ありませんでした	塩ビ使用部部位の調査結果=94点	2001年度を基準に56点に削減	2001年度を基準に51点に削減	2001年度を基準に50点に削減	左記の結果に基づき再設定	59点に削減 目標に対して80%の達成でした		13
●リターナブル梱包の推進 評価指標:カウンター用梱包の導入先	梱包の開発、仕様確定	ハウスメーカールートに一部導入	ハウスメーカールートに導入拡大	ハウスメーカールートに導入拡大	自社ルートに一部導入	自社ルートに全国導入	レディーカウンター自社施工ルートの東日本地区へ100%展開 目標に対して100%の達成でした		15
●室内空気汚染物質の取扱い削減 評価指標:トルエン、キシレン、エチルベンゼン、スチレン、ホルムアルデヒド、フタル酸エステル類の取扱い量(t)	木部材をホルムアルデヒド放散の少ないEO、Fc0に切り替え [!]	データの把握方法確立 結果=110t	2001年度を基準に5%削減	2001年度を基準に10%削減	2001年度を基準に15%削減	2001年度を基準に20%削減	目標を量から材料点数に変更し 目標対象材料23点切替に対して18点を完了し78%の達成でした		13
●簡易分離設計の推進 評価指標:分離困難部品の点数	製品の環境配慮性評価方法の確立	製品の環境配慮性評価の運用開始	分離困難部位3点の簡易分離構造の技術確立	金属部品とその他部品の複合物を対象に、対象部品の品目数調査、目標再設定	目標設定のため、調整中	左記目標設定後に記述	アクリアバスの壁パネルを金属表面材によるワイドサンドイッチパネルから樹脂表面材に切り替えリサイクル可能にしました		14
●グリーン調達の実施 評価指標:対象取引先の拡大数	グリーン調達基準の作成	グリーン調達基準の作成	試行運用開始 対象取引先9社	本格運用開始 対象取引先59社に拡大	対象取引先126社に拡大	対象取引先201社に拡大	126社に拡大 目標に対して100%の達成でした		13
環境方針/②事業活動の中での環境負荷の低減									
●ゼロエミッションへの取組み 評価指標:産業廃棄物の再資源化処理割合(%)	数値目標はありませんでした	データの把握方法確立 再資源化処理割合26%	2001年度を基準に再資源化処理割合50%	2001年度を基準に再資源化処理割合70%	2001年度を基準に再資源化処理割合85%	左記の結果に基づき再設定	90%に向上 目標に対して105%の達成でした		17
●地球温暖化防止 評価指標:CO ₂ 総排出量(t)	数値目標はありませんでした	データの把握方法確立 結果=12,269t-CO ₂	2001年度を基準にCO ₂ 排出量1%削減	2001年度を基準にCO ₂ 排出量2%削減	2001年度を基準にCO ₂ 排出量3%削減	2001年度を基準にCO ₂ 排出量4%削減	18,107t-CO ₂ に増加 基準年に対して48%増加でした		18
●グリーン購入の実施 評価指標:グリーン購入割合(%)	活動がありませんでした	グリーン購入対象品目設定 手順の制定	大分工場・生産本部導入 グリーン購入割合調査	全工場・本社導入 グリーン購入割合調査	導入全部門で70%達成	導入全部門で80%を達成	導入全部門で81%の達成 目標に対して116%の達成でした		19
●一般廃棄物(可燃物)排出量の削減 評価指標:総排出量(t)	社内規程、通知の発行を電子媒体運用に切り替え	前年度継続	データの把握方法確立 結果=532t	2002年度を基準に10%削減	2002年度を基準に20%削減	2002年度を基準に30%削減	312tで、44%削減 目標に対して220%の達成でした		19
環境方針/③環境マネジメントシステムの構築									
●ISO14001の認証取得 評価指標:認証取得拡大数	四倉工場、鹿島アート工場取得	岡山工場取得	鹿島システム工場、湯本工場取得	既取得工場と未取得4工場、本社、生産本部を含めたグループ統合で取得	物流部門3社で取得	取得拡大は未定です	物流部門3社で取得 目標に対して100%の達成でした		20
●環境会計の実施 評価指標:導入の有無	活動がありませんでした	環境会計運用手順の制定	クリナップ本体に対して環境会計を導入	運用維持	関連会社4工場に導入拡大	運用維持	計画を変更し本社3部門に導入 目標に対して100%の達成でした		25~26
環境方針/④環境コミュニケーションを通じ、情報の発信									
●地域社会とのコミュニケーション 評価指標:活動実施の有無	ISO14001取得工場で敷地周辺清掃活動を実施	ISO14001取得工場で敷地周辺清掃活動を実施	ISO14001取得工場で敷地周辺清掃活動を実施	生産本部にも敷地周辺清掃活動の拡大	地域清掃・奉仕活動の実施	地域清掃・奉仕活動の実施	敷地周辺清掃 工場:年2回 敷地周辺清掃 生産本部:年1回 海岸清掃 年1回		27
●環境報告書の発行 評価指標:発行の有無	活動がありませんでした	活動がありませんでした	活動がありませんでした	環境報告書作成準備	社内向け環境報告書の発行	社外向け環境報告書の発行	社内向け環境報告書の発行		-

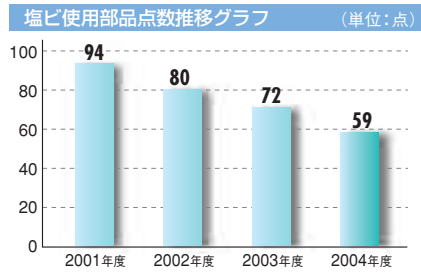
[!] ※E0、Fc0とはホルムアルデヒドの拡散量の基準値であり、JIS(日本工業規格)とJAS(日本農林規格)にそれぞれ決められています。JISでは建築用ボード類の基準、JASでは建築用合板、集成材類の基準を決めています。E0、Fc0は、ホルムアルデヒドの拡散量の最も少ない基準表示です。

環境に配慮した製品づくり

有害化学物質に対する取組み

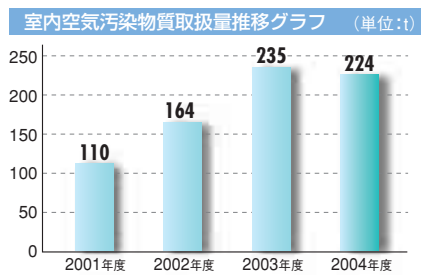
塩ビ使用部品の削減

塩ビ使用部品は廃棄時の再生処理が困難である点、塩ビに可塑性として使用されているフタル酸エステル類が環境ホルモンの疑いがあるとして室内空気汚染物質にも取り上げられている点から、クリナップでもその使用を控えることとし、取組みを進めています。



室内空気汚染物質の取扱量削減

自社で使用する接着剤、塗料剤のほか、調達部品として2次加工された木材、樹脂部品、シート材を対象に室内空気汚染物質が使用されているものを代替品に切り替える活動に取り組んでいます。そのうち、自社使用分として把握した量の推移を右記のグラフであらわしました。



今後は、システムバスルーム、浴槽分野にも取組みを拡げる予定です。

室内空気汚染物質
トルエン、キシレン、スチレン、ホルムアルデヒド、フタル酸ジブチル、フタル酸ジ-2-エチルヘキシル、エチルベンゼンの対策に取り組んでいます。

グリーン調達の実施

クリナップ商品の資材調達活動を通じてお取引先様にも環境保全活動への協力と参画の輪を広げていくとともに、環境に配慮された製品を作り、これを提供することで、循環型社会に貢献し共生することを目的としてグリーン調達活動を行っています。取引先数の拡大と実施先に対する評価活動を進めています。



取引先へのグリーン調達の説明会

グリーン調達
環境に配慮された物品等を採用する調達活動です。

クリナップ

取引先確認/1回
方針、環境保全活動全般等
資材など確認/新規品採用時
有害化学物質、簡易分離性等

確認結果の評価/グリーン調達

OEMメーカー/相手先仕様の完成品

部品・材料メーカー/部品・材料

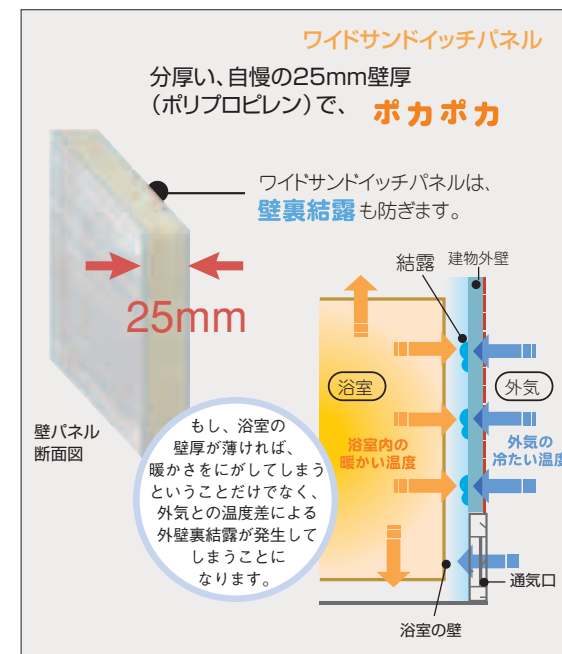
外注先/クリナップ仕様の完成品、半完成品

省資源、リサイクルに対する取組み

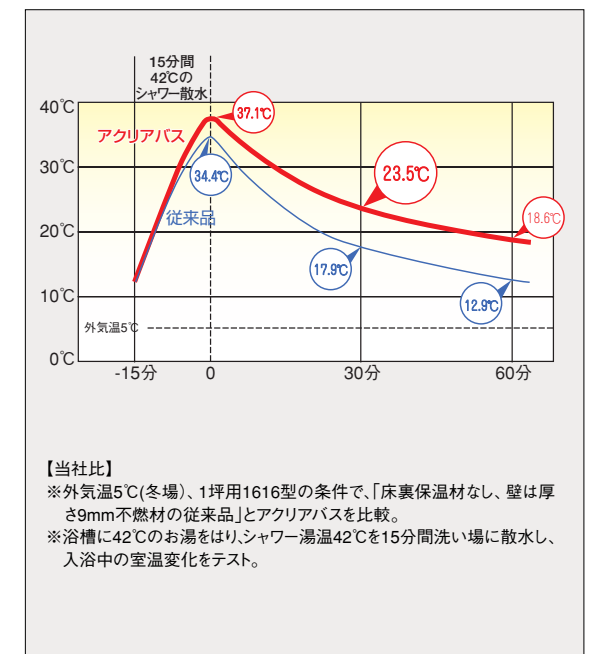
アクリアバスの開発

製品の分離性を向上する活動は、分離できればリサイクルできるが、分離できないために埋め立てられているものについて、分離しやすくすることで、リサイクルに回せる廃棄物の量を増やす目的で取り組んでいます。そのような目的から、クリナップではリサイクルに影響を及ぼす「金属複合物」、「塩ビ又は塩ビ系エラストマー複合物」について、分離困難である全部材ユニットを対象に簡易分離に取り組む活動を進めてきました。2004年度は新製品として発売したシステムバスルーム「アクリア」の「壁パネル」で取組みました。従来は金属と樹脂の複合材料であったものを、今回ポリプロピレンの単一材料にすることで将来の廃棄時のリサイクルを容易にしました。また材料変更により使用時の保温性向上の効果も得られました。今後もこれらの活動を体系的、かつ継続的に行うため、対象の明確化と目標管理によって取組みの基盤を固め、簡易分離設計に取り組めます。

アクリアバスは「浴室まるごと保温」仕様



浴室内の温度変化



開発者インタビュー

アクリアで最もクリナップらしいところといえば、品質、素材のよさ、贅沢さではないでしょうか。いいモノを作ろう、というモノづくりへのまじめな姿勢のあらわれです。例えば壁パネルです。ここ数年業界の流れは、浴室内を少しでも広くとるために、壁を薄くする傾向にありました。しかし、クリナップは壁の保温性を大事にしたいと考えました。戸建て向けシステムバスルームでクリナップのこれまでのよい評価は壁パネルの品質によるところが大きく、そこが大手メーカーとの差であると考えています。今回のアクリアバスでも25mmの壁厚で、品質のよさ、素材の贅沢さを継承した上で、横組みによる省コストやリサイクルしやすいようにするといった新標準を提案しています。



開発二部
藤原マネージャー

環境に配慮した製品づくり



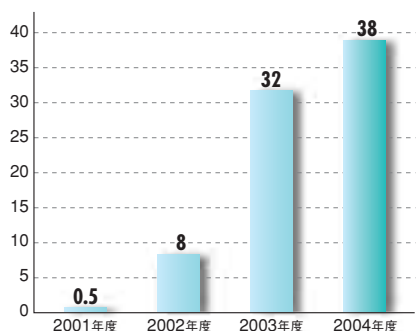
リターナブル梱包

段ボール梱包のように使い捨てではなく、製品納品後回収し、何度でも繰り返し使えるように設計された梱包のことをいいます。

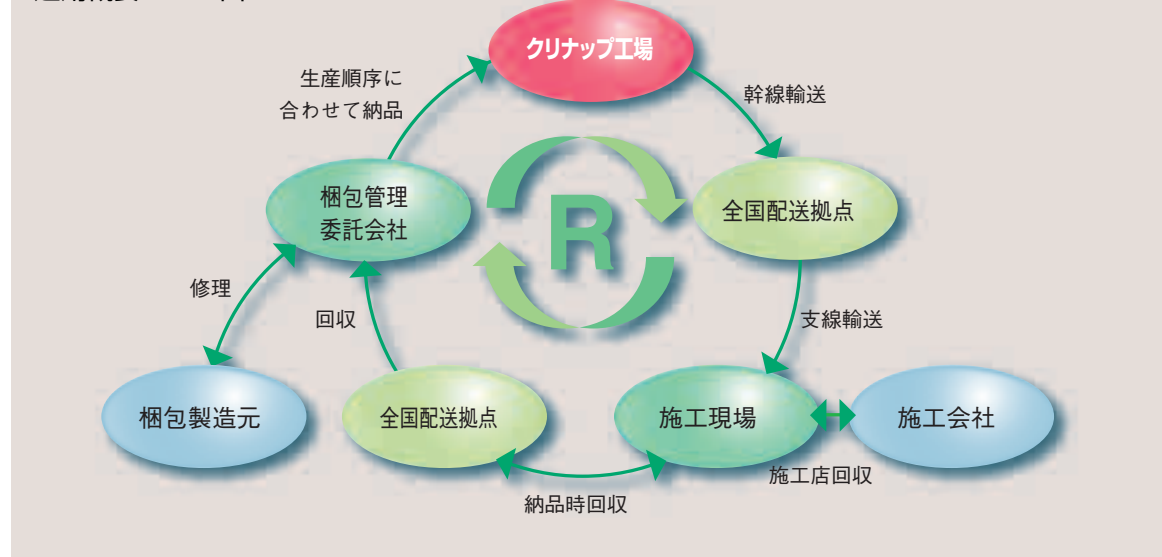
リターナブル梱包の推進

2003年度のハウスメーカー様向けカウンター用リターナブル梱包の全国展開に続き、2004年度はクリナップの販売ルート現場への導入を行い、東日本地区への展開を完了しました。2005年度には全国展開を完了する計画です。またキッチンキャビネットへの導入も検討し、ハウスメーカー様向け限定地域での試行運用を実施しました。2005年度にはハウスメーカー様向けで全国展開を完了させる計画です。リターナブル梱包に対する施工現場やお客様からの要望は高く、施工現場からの廃棄物の排出抑制策のひとつとしても効果的であることから、今後も積極的にリターナブル梱包活動に取り組んでいきます。

段ボール梱包削減量推移グラフ (単位:t)



運用概要フロー図



カウンター用リターナブル梱包



梱包時の状態

回収時の状態

キャビネット用リターナブル梱包



梱包時の状態

回収時の状態

ステンレスについて

クリナップはキッチンの材料として「ステンレス」にこだわっています。それは次のような特長を持っているからです。

- **特長その1** さびにくく、熱や薬品にも強い。
- **特長その2** お手入れ簡単。未永く使える耐久性。
- **特長その3** リサイクル率が高く、地球にやさしい。
- **特長その4** 有害なホルムアルデヒドが発生しない。

クリナップのキッチンを代表するステンキャビシステムキッチン(S.S.)はこの特長を最大限生かした商品といえます。

ステンレスって何？

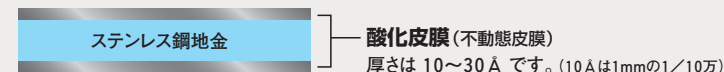
ステンレスは鉄を主成分とし、これに約12%以上のクロムを含み、さらに用途に応じてニッケル、モリブデン、銅、チタンなどを配合して作られた合金です。

〈ステンレスの分類〉

区分	主成分による分類			金属組織による分類
	通称名	代表的鋼種	概略組成	
クロム系	13クロム系	SUS410	13Cr	マルテンサイト系
	18クロム系	SUS430	18Cr	
クロム・ニッケル系	18クロム8ニッケル系	SUS304	18Cr-8Ni	オーステナイト系
		SUS316	18Cr-12Ni-2.5Mo	

ステンレスはなぜさびにくいのか

鉄にクロムを添加するとステンレスの地金の表面に緻密で、強固な酸化皮膜(不動態皮膜)が作られ、鉄の欠点である酸化現象(さび)を防ぐはたらきをします。この皮膜は、クロム酸化物が主体のため、酸素あるいは硝酸のような酸化剤に対して強い耐食性を発揮しますが、きわめて薄くまた透明なため、肉眼では識別できません。ステンレスがさびにくい金属といわれる秘密は、この酸化皮膜のはたらきによるといわれています。



ステンレスはどんな時にさびるのか

- ① ステンレスに鉄やアルミニウムの粉末が付着した状態で放置されると、それらの金属が腐食を起こし、いわゆる“もらいさび”を受けることがあります。またステンレスと異種金属を接触した状態で使用すると接触部に同様のもらいさびが生じることがあります。
- ② 海岸地帯の建物に使われているステンレスがさびる場合は、多くは潮風に含まれている塩分の付着が原因です。

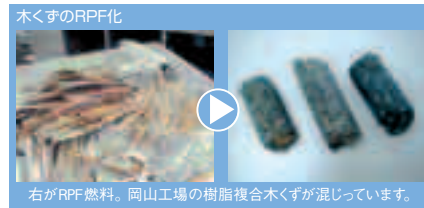
事業の中での環境負荷低減

ゼロエミッションへの取組み

■ 木くず

クリナップから排出される産業廃棄物の約79%が木くず端材で、非常に大きな比率を占めています。そこでクリナップでは次の2つの方法で再資源化の向上に取り組んでいます。

- ①木くず端材をボードメーカーに戻して、再度ボードに加工し購入するという木くずの循環利用を構築しています。
- ②ボードに再加工できない木くず端材は、再生できない樹脂と混ぜ、RPF燃料(石炭、重油等の化石燃料の代替品)に加工し、製紙メーカー等でのサーマルリサイクルに活用しています。



RPF
古紙または木くずと廃プラスチックから作られる新型固形燃料のこと。Refuse Paper & Plastic Fuelの頭文字をとってRPFと呼ばれます。原料が古紙または木くずとプラスチックだけなので、燃料の品質安定がメリットでカロリーも高く、取扱いが容易なため、化石燃料の代替として注目が高まっています。

このような取組みの結果、木くず端材の95%を再資源化することができました。

■ 廃プラスチック

廃プラスチックは産業廃棄物全体の約16%を占めています。クリナップでは次のような方法で再資源化の向上に取り組んでいます。

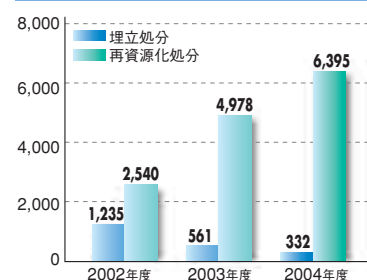
- ①約50%はFRP、人工大理石端材等の熱硬化性樹脂廃棄物です。これらはセメント燃料や路盤材として再資源化しています。
- ②汚れのないプラスチックフィルム等は圧縮処理し、有価物として売却しています。
- ③鹿島工場から出る成形端材は、破碎し、再び樹脂部品の原料として利用しています。



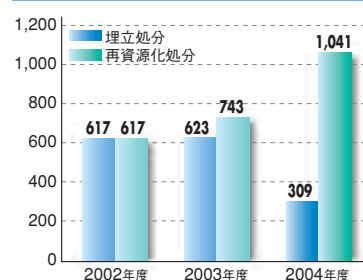
■ その他の廃棄物

その他の廃棄物は、ガラス・陶磁器くず、金属複合物、廃油、汚泥等です。全廃棄物に占める割合は少ないですが、再資源化が遅れており、今後の課題と考えています。

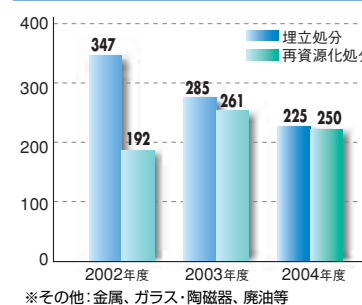
木くずの再資源化処理推移グラフ (単位:t)



廃プラスチックの再資源化処理推移グラフ(単位:t)



その他の再資源化処理推移グラフ (単位:t)



地球温暖化防止活動

中期経営計画に取り組む一方で、生産ラインで効率よくCO₂ジェネレーションや自然エネルギーを導入する検討も進めてきましたが、現状では困難という結果でした。そのため各部門、各工場では電気エネルギーを対象に機械設備、空調設備、照明の3つの視点で手段を考え、こまめな省エネ活動を展開している状況です。物流部門では、一番消費の多い軽油の削減に取り組んでいます。

■ 製造プロセスでの取組み

① 鹿島システム工場、鹿島工場クレーン製造課

コンプレッサーのエア供給を効率よく行い、電気使用量を抑える対策に取り組ましました。ラインのエア配管の適切な箇所に電動バルブ、切り替えバルブを設置し、残業や公出時の運転負荷に適したエア供給を制御することで、無駄に稼働させていたコンプレッサーの運転を停止させたり、容量の小さなコンプレッサーへの切り替えを進めています。

② 鹿島アート工場

使用しない不要な水銀灯については、安定器のコードを切断することで、無駄な電気使用を抑えることにつながりました。

■ 本社・生産本部 オフィスプロセスでの取組み

- ① 夏期、冬期の空調温度+設定値順守 (夏期:26℃以上、冬期:23℃以下)
- ② 不要な照明のこまめな消灯励行
- ③ 昼休みの一斉消灯

■ 物流プロセスでの取組み

クリナップでは毎日多くのトラック便により製品の配送を行っています。そのため多量の軽油の消費、多量のCO₂発生のもととなっています。対応策として経済産業省の物流効率化推進事業の補助を得て「共同物流情報システム(SLIM)」を立ち上げました。これは物流情報の一元化と情報ネットワークの活用により効率のよい配送を実現するもので、「いつ、どこへ、どのくらいの荷物を運ぶ」などのデータを入力することで、最適配送ルートと配送計画をコンピューターが選び出してくれます。SLIMの活用により車両数20%削減、積載効率30%改善の実証実験結果も得ており、配送効率のアップと同時に燃料消費量削減によるCO₂発生の抑制にも大きな効果を出しています。SLIMの活用は自社だけに止まらず、異業種他社も巻き込んだ共同配送構築により、効果をさらに拡大しています。

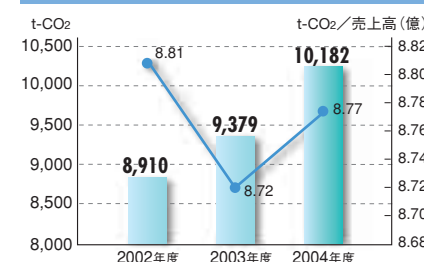


SLIM操作の様子です。

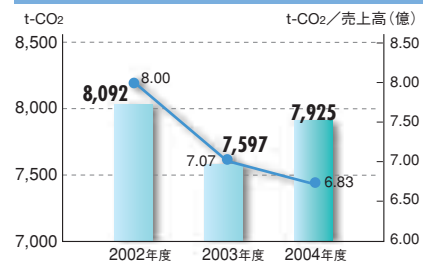
このように、電気についてはこまめな省エネ活動に取り組ましましたが、CO₂排出量の原単位は微増で抑えられたものの、絶対量は生産量増加の影響で増えてしまいました。燃料については物流部門の活動の成果等で生産量増加によりCO₂排出量の絶対量は増えましたが、原単位は下げることができました。

原単位
単位の製品台数や売上額を生産するのに必要な電力・熱(燃料)などのエネルギー消費量やCO₂排出量をいいます。この値が小さい程、生産効率の上昇を示し、省エネルギー化され、温暖化への影響が小さくなります。クリナップでは売上高1億円あたりのCO₂排出量を指標としています。

電気使用に伴うCO₂排出量と原単位推移グラフ



燃料使用に伴うCO₂排出量と原単位推移グラフ

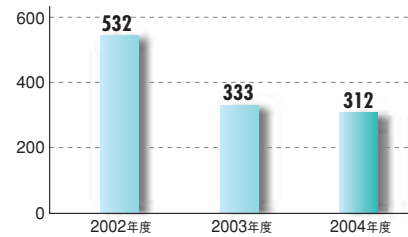


事業の中での環境負荷低減

一般廃棄物(可燃物)排出量の削減

一般廃棄物については、前年に引き続き排出量の多くを占めている紙類の分別再生、使用量削減対策に、また容器包装リサイクル法に伴うプラ容器類の分別に取組みました。従来焼却に回していた紙コップについては、順次回収、再資源化に切り替えを行いました。

一般廃棄物(可燃物)排出量推移グラフ(単位:t)

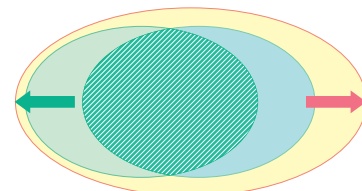


グリーン購入の実施

!
グリーン購入
環境に配慮された文具類等を採用、購入する活動です。

グリーン購入の活動はISO14001取得部門を対象に2002年度から進めてきましたが、2004年度で全部門への展開を完了しました。購入割合については目標値70%に対し、81%と達成することができました。

クリナップでは、右図にも示した通り網掛け部を目標設定の対象にしています。従って、達成度評価は、全ての購入文具類に対するグリーン購入割合ではなく、指定した文具類に対するグリーン購入割合となっています。しかし、グリーン購入を全社的に推進するにあたり、指定文具類以外の文具類でも環境配慮物品を積極的に購入することは当然のように行われています。そのため、目標の達成状況を監視しながら、都度、指定対象文具類の品目拡大を行う予定です。



● 全ての文具類
● グリーン購入指定文具類
● 実際に購入した文具類
● グリーン購入測定範囲(目標)

網掛けの範囲を広くすることが目標です。そのため、→の方向に活動を進めています。網掛けの範囲が緑線に近づくにつれ、さらに対象を→の方向に拡大し活動を進めます。

全部門が共通に取り上げる文具类等73品目を設定
監視・評価対象文具類

展開

オフィス活動 主幹:総務部門
● 本社(本社内全部門)
● 生産本部(生産本部内全部門)
● 全工場 ● 物流部門

監視・測定

指定文具類に該当する全購入文具類に対して環境配慮品が占める割合を月次評価

文具類からユニホームへ拡大

従来グリーン購入の活動は文具類のみを対象としていましたが、今回工場社員のユニホームに拡大しました。ユニホームメーカーの協力を得て、男性用ユニホームの生地を再生ポリエステル(再生PET)に変更し、環境にやさしい商品に認められる(財)日本環境協会のエコ認定を取得しました。また素材の変更に加え、これまでのものより生地のストレッチ性(伸縮性)を向上させ、動きやすく、人にもやさしいものとなりました。価格も約25%低減することもできました。今後は女性用、さらに夏服へとエコ対応品を拡大していきます。



環境マネジメントシステムの構築

ISO14001の認証取得

ISO14001認証取得の導入履歴は次の表の通りです。ISO14001は、企業として環境保全活動を思いつきで取り組むのではなく、P(計画)、D(運用)、C(監視・測定、監査)、A(見直し)の管理サイクルを体系的に事業活動に導入し、継続的に取り組むためのしくみを作る道具として最適でした。そこで、製造部門から認証取得に取組み始め、計画通りに活動を進めてきました。2003年度には、製品のライフサイクルにかかわる工程とオフィス活動を含めた総合的な環境マネジメントシステムを構築し、ISO14001を統合取得することができました。2004年度は、物流関係会社3社を対象に取得拡大を行い、グループ全体の認証取得を完了しました。

ISO14001認証取得拡大の履歴

取得年度	製造部門(略称使用)								非製造部門		物流部門				
	鹿島工場	四倉工場	鹿島アート工場	岡山工場	鹿島システム工場	湯本工場	大分工場	クレート製造課	野田工場	調理機工業	本社	生産本部	ロジスティクス	クリナップ運輸	クリナップ岡山運輸
1999年	●														
2000年	●	●	●												
2001年	●	●	●	●											
2002年	●	●	●	●	●	●									
2003年	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●			
2004年	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●

2003年度グループ統合取得(2004年1月1日)
2004年度物流部門含めグループ統合取得(2005年3月1日)

環境マネジメントシステムの運用状況

ISO14001のマネジメントシステムに準じてPDCAの管理サイクルを適切に運用するためには、そのタイミングが非常に重要になります。特に、CやAは、その実施タイミングがずれると次年度の活動計画に必要な資源が割り当てられない、運用期間が短くなる等の問題を引き起こすこととなります。そのため、クリナップはPDCAの運用時期を下記表の時期に設定し、計画策定、監査、見直しを行うように進めています。

管理サイクルの運用時期

管理サイクル	前年度	当該事業年度													
		上期(月)						下期(月)							
		2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
P 当年度計画															
D 運用期間															
C 内部監査(上期、下期)															
C 法規等の要求に対する評価															
C 目標達成に対する見込み評価															
A 経営者の見直し(上期、下期)															
P 次年度計画策定															
※ 外部審査															

環境マネジメントシステムの構築

環境教育・訓練

クリナップは、環境教育・訓練を部門教育に位置づけ、各部門で年間の教育・訓練計画を策定し、その計画に基づき教育・訓練を実施しています。また、最低限必要な教育・訓練内容は社内規程に規定しており、各部門は教育・訓練をその中から選定し、専門的な知識や技能が求められる場合は外部研修にも参加する等して、全社員が環境保全活動に取り組めるように人材育成に努めています。

■ 共通性の高い環境教育・訓練

共通性の高い環境教育・訓練としては、社内規程の勉強会や廃棄物の分別訓練、危険物類の取扱い等を取り上げ、各部門は定期的にこれらの教育・訓練を実施しています。

■ 特定業務従事者に対する教育・訓練

環境汚染に及ぼす影響が大きいため、特に適切な運用が求められる業務に従事する者に対しては、専門的知識・技能や経験が伴うことから、特定業務従事者として社内認定された者を従事させています。

■ 内部環境監査員養成セミナー

環境マネジメントシステムのプロとして適切に運用管理状況を監査し、不適合を取り上げることができる人材を育成するために内部環境監査員養成セミナーを開催しています。このセミナーは、規格要求事項、法的要求事項、監査の進め方等を理解する教育プログラムと、監査のケーススタディに取り組む訓練プログラムで構成されています。



間接部門の従業員に対する廃棄物分別説明会

特定業務種類と2004年度迄の認定者数は次の通りです

- 産業廃棄物管理責任者： 68名
- 特別管理産業廃棄物管理責任者： 28名
- 危険物貯蔵・取扱業務従事者： 104名
- 環境設備管理担当者
(大気・水質・騒音・振動公害防止管理者含む)： 118名
- エネルギー管理者(電気)： 16名

2004年度迄に監査員セミナーを修了した人数は次の通りです。

- 内部環境監査員養成セミナー修了者： 142名

緊急事態への対応

工場では、危険物類の取扱い、燃焼施設の運転、汚水処理、廃棄物保管等を行っており、取扱いや操作方法を間違えると大きな環境汚染を引き起こすばかりではなく、近隣にも迷惑をかけることとなります。そのためクリナップでは緊急事態の発生を想定し、その発生に備えた道具を設置するとともに訓練を年に1回実施しています。2004年度も全工場で緊急事態発生時に備えた訓練を行いました。また、事故による災害を未然に防止するための備えとして、普段の運用管理で施設点検、設備点検を継続して実施しています。今後も、事故の発生を未然に防止するとともに、緊急事態発生に備えた対応を継続します。

想定した緊急事態

- 燃焼施設(ボイラー)、危険物類からの火災
- 有害化学物質、危険物類の取扱いミスによる漏洩、地下浸透
- 粉状廃棄物(木材、樹脂、金属の削り粉)の飛散



側溝漏洩防止訓練
鹿島アート工場の訓練風景



設置した対応道具の例
危険物類の漏洩時に使用する道具



浸透防止の例
コンプレッサー室内の油浸透防止加工

環境関連法令の順守

■ 公害防止関係法令の順守状況の報告

毎年1回、12月、1月に法的要求事項に対する適合性評価を実施しています。2004年度の評価結果は、全て適合しています。

■ 他の環境関連法令の順守状況の報告

①PRTR法

PRTR法では、法が指定する第1種指定化学物質(354物質)の年間取扱量が1トンを超える場合、その排出量と移動量を届け出ることを義務づけています。その届出についてですが、PRTR法に基づく届出対象工場は、鹿島システム工場、湯本工場、鹿島工場、クレート製造課、関連会社の岡山工場、鹿島アート工場の合計6工場でした。そこで、これらの届出を2005年6月20日に完了し、受理されたことを報告します。また、2004年度のクリナップの指定化学物質の取扱量、排出量及び移動量は次の通りです。

2004年度PRTR法第1種指定化学物質の取扱量等のデータ

法令物質番号	指定化学物質名称	取扱量 (t)		排出量 (t)		廃棄物としての移動量 (t)
		2003年度	2004年度	大気への排出	水への排出	
30	ビスフェノールA型エポキシ樹脂	4.6	3.2	0.0	0.0	0.1
40	エチルベンゼン	1.1	0.4	0.4	0.0	0.0
63	キシレン	5.5	2.6	2.5	0.0	0.1
101	エチレンジグリコールモノエチルエーテルアセテート	4.4	4.8	4.5	0.0	0.0
145	塩化メチレン	64.7	46.2	38.3	0.0	7.9
177	スチレン	201.7	201.2	0.7	0.0	0.4
227	トルエン	20.8	13.7	12.0	0.0	1.6
232	ニッケル化合物	31.1	31.0	0.0	0.0	0.3
270	フタル酸ジブチル	10.3	11.9	0.0	0.0	0.7
272	フタル酸ジ-2-エチルヘキシル	0.4	0.1	0.0	0.0	0.1
310	ホルムアルデヒド	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
311	マンガン及びその化合物	6.9	6.9	0.0	0.0	0.1
314	メタクリル酸	1.1	1.2	0.0	0.0	0.0
320	メタクリル酸メチル	548.0	633.7	3.1	0.0	9.9
その他		66.7	0.8	0.1	0.0	1.4
合計		967.3	957.7	61.6	0.0	22.6

この色は取扱量の削減目標の対象化学物質である、室内空気汚染物質を示しています。

②PCB特別措置法

2001年7月15日に施行されたPCB特別措置法に基づき、PCB廃棄物の保管状況等を届け出ています。2004年度末現在でPCBを含む廃棄物として蛍光灯安定器を195本、高圧コンデンサを1台保管しています。これらのPCB廃棄物は、ステンレス製の専用容器に納め、さらに保管場所を囲い、特別管理産業廃棄物置き場として周囲と隔離した状態で厳重に保管・管理しています。



PCB保管庫

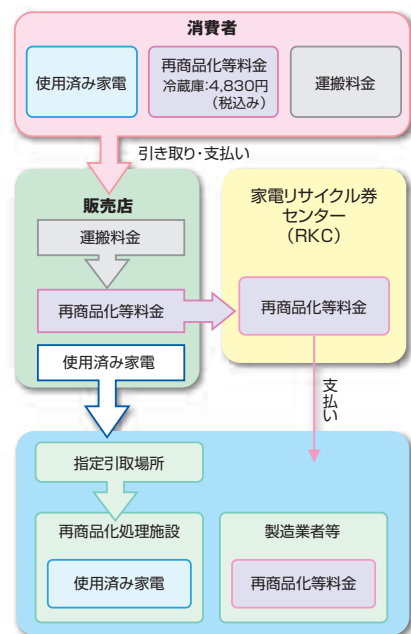
環境マネジメントシステムの構築

■ 消防法

2004年度の危険物貯蔵所の新設、危険物指定数量の倍数、設置者、管理責任者等の変更はなく、また、法的要求事項についても適合しています。

■ 家電リサイクル法

2001年4月1日に施行された家電リサイクル法では、消費者が排出した使用済みの対象家電製品を販売店や自治体が引き取り、指定引取場所まで運搬して、その後はメーカーの責任で再商品化処理施設まで運んで再商品化処理することを義務づけています。その概要は、右の図の通りです。そして、クリナップでは再商品化が義務づけられた家電製品のうち、冷蔵庫・冷凍庫の再商品化処理を実施しています。また、各対象家電製品のリサイクル率は法律で規定されており、冷蔵庫・冷凍庫の場合は50%以上です。これら法的要求事項に準じた2004年度の処理実績を報告します。



1. 特定家庭用機器廃棄物の再商品化等実施状況 (総括)

指定引取場所での引取台数	669台
再商品化処理台数	660台
再商品化等処理重量	40t
再商品化重量	24t
再商品化率	61%

※引取台数と処理台数の差は、2004年度末現在での処理在庫分です。

2. 再商品化等に必要となる行為を開始した年月日及び終了した年月日

開始した年月日	2004年 4月1日
終了した年月日	2005年 3月31日

3. 製品の部品または材料として利用するものを有償または無償で譲渡した状態にした場合の当該製品及び材料の総重量

鉄	19.00t
銅	0.37t
アルミニウム	0.01t
非鉄・鉄等混合物	2.94t
その他有償物	1.68t
有償物総重量	24.00t

4. 冷媒として使用していたものを回収した総重量

冷媒として使用していたもの	87.2kg
---------------	--------

■ 廃棄物処理法

廃棄物の不法投棄問題が改善されず、排出事業者側の責任が廃棄物処理法で規制強化される中、クリナップでは、その予防策として次のような取組みを進めています。

- ① 産業廃棄物の収集運搬、処理委託契約を締結している委託先を対象に、年1回の頻度で処理の現場に出向き、記録を閲覧し、適正な処理状況の確認を行う。
- ② 廃棄物管理票(マニフェスト)による照合確認を徹底して行う。

その結果、不法投棄もなく、適正な処理が維持されていることが確認できました。クリナップ、関連会社工場及び物流部門の地区別2004年度実地確認結果を報告します。



処分場の視察



確認に行った処分場の許可表示板

2004年度処理委託先適正処理実地確認結果

地区	実地確認期間	区分	対象数	結果
いわき地区事業所	2004年10月~11月	収集・運搬委託先	3社	適合
		中間処理委託先	14社	適合
		最終処分委託先	9社	適合
岡山工場	2004年4月、9月、11月	収集・運搬委託先	4社	適合
		中間処理委託先	4社	適合
		最終処分委託先	0社	—
大分工場	2004年10月	収集・運搬委託先	0社	—
		中間処理委託先	7社	適合
		最終処分委託先	1社	適合

■ ディーゼル車排ガス規制対応

2003年10月1日からの東京、千葉、埼玉、神奈川の1都3県のディーゼル車排ガス規制(窒素酸化物(NOx)及び粒子状物質(PM)の排出規制)に対応し、クリナップの物流部門も全て排ガス浄化装置の取付けや規制対象車両への入替えを行い、完了しました。また、大型トラックの高速道路での重大事故防止のためのスピードリミッター(90km/h以上でない装置)の取付け規制についても同様に対応しました。物流部門では、荷主様の日々高まる環境認識に応え、また、輸送業界としては向かい風の環境の中、これらの規制に対応することをチャンスと捉え、積極的に環境事業に取組み、付加価値と収益性の高いニューエコロジー輸送サービスを追求しています。



東京都の規制適合ステッカーと、それが貼られたクリナップ運輸のトラックです

環境保全コストと環境保全効果

活動分類			環境保全コストの欄				環境保全効果の欄							
環境会計ガイドラインの分類	クリナップの活動分類	中期経営計画との関連	投資		費用		物量効果							
			2003年度	2004年度	2003年度	2004年度	物量項目	単位	2003年度	2004年度	昨年度比較			
1. 事業エリア内コスト														
①公害防止コスト	大気汚染、騒音・振動防止活動等		0.4	0	16.2	10.7	電気使用量	千kWh	24,811	26,937	+2,216			
②地球環境保全コスト	地球温暖化防止活動等	地球温暖化防止	0.8	0	0.7	0.8	燃料使用量	KL (原油換算)	2,846	2,966	+120			
③資源循環コスト	産業廃棄物再資源化活動 適正処理活動等	ゼロエミッションへの取組み 一般廃棄物排出量の削減	6.5	2.6	117.7	109.6	水道水使用量	千m3	144	159	+15			
2. 上・下流コスト	グリーン購入、調達活動 家電リサイクル法等の対応活動 室内空気汚染物質、塩ビ使用部品削減活動 リターナブル梱包活動	グリーン調達の実施 グリーン購入の実施 室内空気汚染物質の取扱い削減 リターナブル梱包の推進	8.8	1	28.6	36	CO ₂ 排出量	t-CO ₂	16,976	18,107	+1,131			
3. 管理活動コスト	ISO14001取得活動 従業員への環境教育・訓練活動 環境指標の監視・測定活動	ISO14001の認証取得 環境会計の実施	1.6	0	40.5	30.9	CO ₂ 排出原単位	t-CO ₂ /売上高(億)	15.9	15.6	-0.3			
4. 研究開発コスト	環境配慮製品の研究・開発活動	簡易分離設計の推進	0	0	44.3	13	再資源化処理割合	%	80	90	+10			
5. 社会活動コスト	地域の清掃・奉仕活動 場内緑化維持活動 環境報告書の発行	地域社会とのコミュニケーション 環境報告書の発行	0	0	2	5.8	産業廃棄物排出量	t	7,477	8,522	+1,045			
6. 環境損傷対応コスト	該当する活動なし		0	0	0	0	産業廃棄物排出原単位	t/売上高(億)	7	7.3	+0.3			
	環境保全コストの合計		18.1	3.6	250	206.8	一般廃棄物(可燃物)排出量	t	333	312	-21			
							室内空気汚染物質取扱量	t	240	230	-10			
							PRTR物質取扱量	t	967	958	-9			
							グリーン調達対象取引先数	取引先数	44	126	+82			
							段ボール梱包削減重量	t	32	38	+6			

環境保全対策に伴う経済効果

経済効果の内容		2003年度	2004年度
1. 収益	有価物売却等により得られた事業収入	71.7	103.9
2. 費用節減	資源の効率的利用に伴う原材料費の節減、省エネルギーによる費用の節減 リサイクルに伴う廃棄物処理費の節減	6.5	10.9
	合計	81.2	115.2

環境会計結果の報告

クリナップでは、2002年度から環境会計を導入しました。導入理由は、次の2点です。

- ①内部の利用目的：自分たちの環境保全活動の状況が、環境会計の結果から得られる各活動の工数や費用、環境負荷量等を分析することで定量的に把握することができるため、活動計画の見直しや目標設定に役立つ道具として利用できる。
- ②情報発信の目的：クリナップの環境保全活動状況を利害関係者の皆様にもわかりやすく情報開示し、客観的に確認していただける道具として最適である。

そこで、次に、環境会計の結果から得られた情報に対する私たちの考察をご紹介します。この考察を、次年度の活動や中期経営計画に展開し、継続的な環境保全活動に取り組んでいきます。

■2004年度の環境会計の結果から…

2004年度は、顧客ニーズに特化したリターナブル梱包活動が活発に行われ、全活動の3割を占めるようになり、メイン活動となってきました。しかし、その他活動については、大きな動きはなく費用、工数が低下し、活動の沈静化が見られました。2005年度は、京都議定書への対応としてCO₂排出削減による地球温暖化防止活動、社会、顧客ニーズへの対応として環境配慮型製品開発等、中期経営計画とも連動した、自主的かつ積極的環境保全活動への取組みをますます高めていくよう、努力していきます。

環境会計の集計方法について

環境会計は、「環境会計ガイドブック2002年版／環境省」に準拠して算出しています。その算出に際して特記すべき事項を次に記します。

● 環境保全コスト

減価償却費：投資額の減価償却費用を費用に含めて算出しています。

複合コスト：環境保全の他、品質改善活動、原価低減活動等のように、支出目的が複数考えられる場合は、目的基準に従い、環境保全目的で投下された費用のみを集計しています。

● 環境保全効果

効果の対象：直接把握できる環境負荷のみを対象にして算出しました。

● 環境保全対策に伴う経済効果

効果の範囲：実質的效果のみを対象にして算出しました。

環境コミュニケーション

■ 敷地周辺の清掃活動

クリナップは、事業所敷地周辺の清掃活動を各事業所別で定期的に行っています。いわき市鹿島工業団地内の工場では、春と秋に工業団地の清掃活動に参加しています。今後も、清掃活動の範囲を広げて地域交流を積極的に行い、地域社会との共生に向けた取組みを進めていく予定です。



生産本部清掃活動

生産本部清掃活動

鹿島工場団地内 春の清掃活動

■ 海岸の清掃活動

2004年度から清掃活動範囲を海岸へも広げました。11月にいわき地区の工場社員とその家族70名が、四倉工場近くの県立公園「新舞子海岸」を清掃しました。これは、クリナップが取り組む環境ISO14001の地域における環境整備活動の一環とし、「クリーンウォーキング」と銘打ち、社員の健康増進の目的も込め行いました。約6kmの海岸や松林に散乱する紙くず、空き缶等のゴミを拾い集め、その量はナイロン袋100袋、2トントラック1台分になりました。今後も、毎年恒例の活動とし、地域の環境美化活動を展開していきたいと思えます。



社員の家族共々一緒になってゴミ拾い

■ 工場、ショールーム見学会

社員の家族を対象に、工場とショールームの見学会を行っています。

この会は、日頃社員を陰で支えている家族への感謝の意をあらわし、家族が働いている職場の見学を通して、クリナップという会社の生産活動の他、環境取組み等もより理解していただくためのものです。



工場、ショールーム見学の集い

■ 景観を美しく、クリナップ岡山工業が表彰

岡山工場のある岡山県勝央町では、「勝央町施設緑化制度」を設け、伝統と歴史のある美しい町並みと、豊かな自然環境に調和した都市景観づくりを推進しています。この制度で、町民や企業、団体の取組みを表彰しており、第1回の表彰式が2005年2月28日にありました。工業団地に立地する3社が選ばれ、そのうちの1社として、クリナップ岡山工業(株)が表彰されました。これからも美しい景観づくりにさらに努力していきます。



景観を美しく、クリナップ岡山工業が表彰

環境保全活動の沿革

クリナップの環境保全活動が全社的活動に位置づけられる前年の1999年から各年の環境保全活動関係の話題を次の表にまとめました。

1999年	4月	●環境に関する技術/マネジメントシステムに関する業務を担う部門として品質環境保証部を設置。
	9月	●鹿島工場が環境管理の国際規格ISO14001を認証取得。
	11月	●日本規格協会「建設関連企業ISO14000研究会」に参加し、編集にかかわった「建設関連企業環境マネジメントシステムの解説と構築」出版。
	12月	●環境課題に対する対策意見決定機関として環境保全会議を設置し、第1次中期経営計画策定に向けた環境保全活動の方向づけを行う。
2000年	4月	●第1次中期経営計画制定、全社環境保全活動を本格的に開始。
	6月	●鹿島工場HIPS樹脂部品の端材を他部品の原料として利用開始。
	8月	●使用木材をホルムアルデヒド放散の最も少ないEO、FcOに切り替え実施。
	12月	●全社アイドリングストップ運動を開始。
2001年	2月	●四倉工場、株式会社クリナップステンレス加工センター鹿島アート工場がISO14001の認証を取得。
	4月	●環境保全活動の拡大に伴い、品質環境保証部から独立させた環境保全室を設置。
	6月	●クリナップ研究所が環境計量事業登録。
	10月	●鹿島システム工場木端材用の焼却炉を稼働停止。
	11月	●鹿島工場FRP廃棄物を埋立処分から再資源化処理に移行。
	12月	●ハウスメーカー様の東北地域にカウンター用のリターナブル梱包を導入、運用開始。
2002年	3月	●クリナップ岡山工業株式会社がISO14001の認証を取得。
	4月	●ハウスメーカー様の東京、神奈川地域にカウンター用のリターナブル梱包を拡大導入。
	4月	●グリーン購入の活動を開始。
	4月	●クリナップ株式会社を対象に環境会計を導入。
8月	●ボード供給メーカーと木端材の循環利用システムを構築、運用開始。同時に、容器包装系廃棄物の圧縮、再資源化処理も運用開始。	
2003年	2月	●ハウスメーカー様の全国地域にカウンター用のリターナブル梱包を拡大導入。
	3月	●建築基準法改正に伴い、使用木材を全てF☆☆☆☆に切り替えることを決定。
	4月	●環境基本方針制定、第2次中期経営計画スタート。
2004年	4月	●鹿島システム工場、湯本工場がISO14001の認証を取得。
	10月	●クリナップ運輸株式会社ディーゼル車排ガス規制に対応。
	1月	●クリナップグループとしてISO14001の認証を取得。クリナップ本社・生産本部と生産部門で未取得であった調理機工業、野田、大分工場及びクレート製造課が既に取得済みの6工場と一本化した。
2005年	1月	●カウンター用リターナブル梱包の活動が、福島県主催のゼロエミッション提案コンクールで優秀賞を受賞。
	7月	●キャビネット用リターナブル梱包をハウスメーカー様へ試行、運用開始。
	11月	●カウンター用リターナブル梱包を自社東日本に展開。
2005年	3月	●クリナップロジスティクス株式会社、クリナップ運輸株式会社、クリナップ岡山運輸株式会社がISO14001認証を取得。これで、クリナップグループの物流部門がISO14001の組織に加わる。

! F☆☆☆☆
建築基準法に定められた木質材料及び接着剤のホルムアルデヒド放散量の少ない最上位等級のことをいいます。

クリナップグループ&ネットワーク

クリナップ生産拠点は福島県いわき市という街にあります。ここには、クリナップグループで10ある生産工場のうち8つが所在しています。

そのショールームですが、このほど、従来の観音扉式キッチンと新型の引き出し式キッチンの収納力や機能の差を一目で比べられる「ソリューション(問題解決)コーナー」が登場しました。このコーナーは、普段忘れてかけている使い勝手の不都合さを改めて思い出すことができる点や実際のリフォームなどに役立つ現実的な提案ができる点等の理由から大変好評を得ています。

(以下の内容は、2005年6月現在のものです。)

クリナップグループ

【本 体】

- クリナップ株式会社

【生産/関連4社】

- クリナップ調理機工業株式会社
- クリナップ岡山工業株式会社
- 九州クリナップ工業株式会社
- 株式会社クリナップステンレス加工センター

【商社/関連1社】

- 井上興産株式会社

【運輸/関連3社】

- クリナップロジスティクス株式会社
- クリナップ運輸株式会社
- クリナップ岡山運輸株式会社

【施工・サービス/関連2社】

- クリナップテクノサービス株式会社
- クリナップテクノサービス西日本株式会社

【人材派遣/関連1社】

- クリナップキャリアサービス株式会社

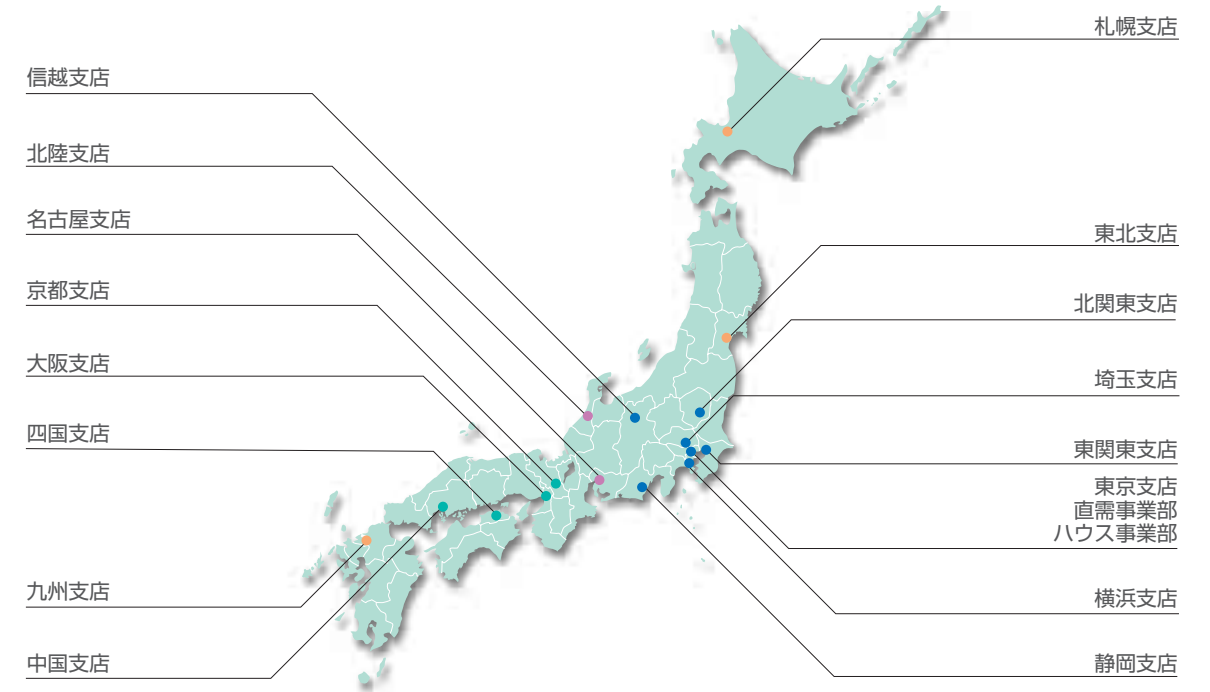
クリナップネットワーク(生産拠点)

クリナップ(株)四倉工場	〒979-0204 福島県いわき市四倉町細谷字小橋前52
クリナップ(株)鹿島システム工場	〒972-8311 福島県いわき市常磐水野谷町亀ノ尾85-13
クリナップ(株)湯本工場	〒972-8313 福島県いわき市常磐岩ヶ岡町沢目20-2
クリナップ(株)鹿島工場	〒972-8311 福島県いわき市常磐水野谷町錦沢73-3
クリナップ(株)鹿島工場クレート製造課	〒972-8312 福島県いわき市常磐下船尾蛇並28-11
クリナップ調理機工業(株)久之浜工場	〒979-0333 福島県いわき市久之浜町久之浜字川田25
クリナップ岡山工業(株)岡山工場	〒709-4321 岡山県勝田郡勝央町太平台30
九州クリナップ工業(株)大分工場	〒879-0462 大分県宇佐市大字別府字蛭子ヶ原967-57
(株)クリナップステンレス加工センター野田工場	〒971-8126 福島県いわき市小名浜野田字北坪15-12
(株)クリナップステンレス加工センター鹿島アート工場	〒972-8311 福島県いわき市常磐水野谷町亀ノ尾85-4



クリナップ(株)四倉工場 クリナップ(株)鹿島システム工場 クリナップ(株)湯本工場 クリナップ(株)鹿島工場 クリナップ(株)鹿島工場クレート製造課
クリナップ調理機工業(株)久之浜工場 クリナップ岡山工業(株)岡山工場 九州クリナップ工業(株)大分工場 (株)クリナップステンレス加工センター野田工場 (株)クリナップステンレス加工センター鹿島アート工場

クリナップネットワーク(営業拠点)



●東京支社管轄支店/7支店 47営業所 1出張所

東京支店	〒101-0045 東京都千代田区神田鍛冶町3-4-2神田東洋ビル
北関東支店	〒321-0966 栃木県宇都宮市今泉1603
東関東支店	〒260-0852 千葉県千葉市中央区青葉町1239-10
埼玉支店	〒330-0834 埼玉県さいたま市大宮区天沼町1-434-1
横浜支店	〒221-0835 神奈川県横浜市神奈川区鶴屋町2-17-1 相鉄岩崎学園ビル
静岡支店	〒422-8076 静岡県静岡市八幡2-14-16
信越支店	〒380-0921 長野県長野市栗田322-1

●名古屋支社管轄支店/2支店 14営業所

名古屋支店	〒461-0002 愛知県名古屋市東区代官町34-29
北陸支店	〒920-0024 石川県金沢市西念3-29-14

●関西支社管轄支店/4支店 30営業所 5出張所

大阪支店	〒550-0004 大阪府大阪市西区鞆本町1-11-7 信濃橋三井ビル
京都支店	〒612-8443 京都府京都市伏見区竹田藁屋町139
中国支店	〒731-0123 広島県広島市安佐南区古市2-35-14
四国支店	〒760-0078 香川県高松市今里町6-13

●支店管轄/3支店 31営業所 6出張所

札幌支店	〒003-0023 北海道札幌市白石区南郷通11丁目北1-30
東北支店	〒981-3133 宮城県仙台市泉区泉中央1-19-5
九州支店	〒812-0013 福岡県福岡市博多区博多駅東1-17-25 KDビル

●事業部

直需事業部	〒101-0045 東京都千代田区神田鍛冶町3-4-2 神田東洋ビル
ハウス事業部	〒116-8587 東京都荒川区西日暮里6-22-22



住まいの夢を創る

カキタツツ。株式会社

東京都荒川区西日暮里6-22-22 〒116-8587 TEL.03(3894)4771

ホームページアドレス

<http://cleanup.jp/>

問い合わせ先 環境保全室

TEL.0246 (34)0216 FAX.0246 (34)6156

Eメール kankyogijutuka@cleanup.co.jp